

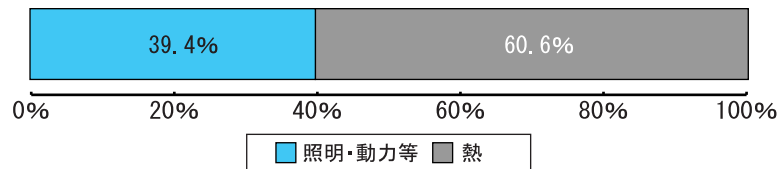
(3) 熱と電気の消費構造

公共施設におけるエネルギー消費構造を、電気と熱の用途別に概観していく。ただし、調査で明らかになった電力消費量には、照明や動力など電気固有の用途のほか、エアコンなど熱を得るための機器の利用も含まれていると考えられる。そのため、下記のような仮定条件を設定し、電気と熱のエネルギー消費構造の推計を行った。

【仮定条件】 空調機器（エアコン）をあまり使用しない中間期（春、秋）の中でも電力消費量が最も少ない月の消費量は照明や動力などに由来するものであり、その他の時期の増減は空調機器で消費された電力消費量（熱として利用されている）とみなす

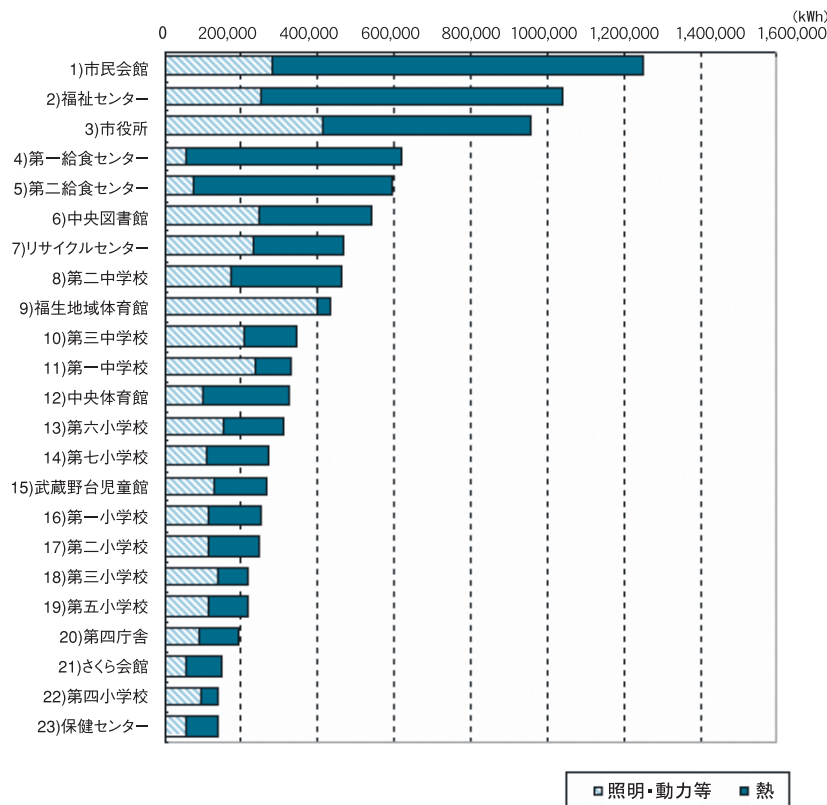
その結果、公共施設全体で消費される燃料（9,753,790kWh）のうち「熱」で消費されているものが60.6%、「照明・動力等」で消費されるものが39.4%を占めていると推計された。

先の燃料種別の構造と比較すると、電気を使用して熱を得ているケース（エアコン等）も少なからず存在していることがわかる。



用途別のエネルギー消費割合

個別施設で見ると、各施設のエネルギー総使用量に占める、熱エネルギーとして消費している割合が半分以上を占める施設は16施設に及ぶと推測される。



個別公共施設における用途別のエネルギー消費割合